

## 6 CAPD 患者さんに短期教育入院を試みて

長野県厚生連佐久総合病院 透析室

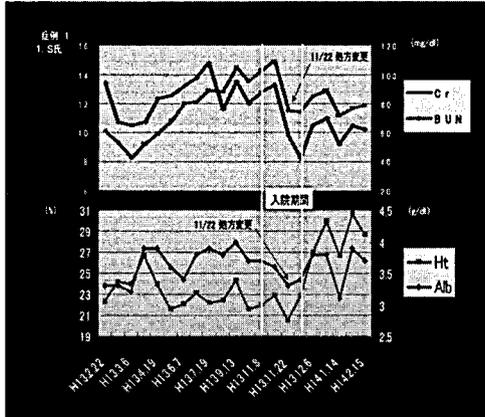
◎鷹野ふよう 清水智江 長田なみ江 鷹野美代子 宮下裕夫 澤 仁子  
同内科 山口 博 池添正哉

### I. はじめに

当院では腹膜透析、以後PDと略すが、28名の方が治療されている。血液透析患者は170名で、外来での看護婦の体制は透析室との兼任であり4名が携わっている。その為外来での指導には十分な時間が獲れないのが現状である。

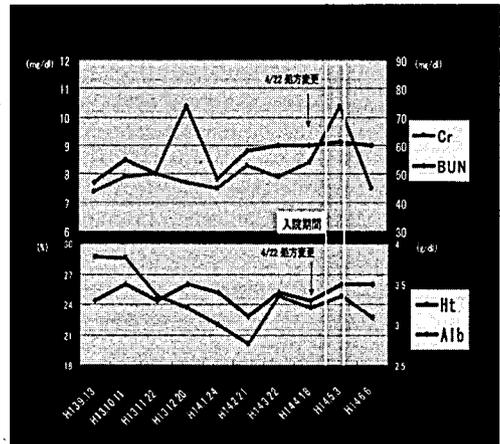
### II. 研究方法

- 1 短期入院の中で患者さんに負担をかけずに、腹膜機能検査、以後PETと略す、やクレアチンクリアランス、つまり透析効率はどうかを検査する。
  - 2 病棟Nsと連絡を取り合い、検査の予定を立てると共に、情報を交換し合う。
  - 3 PD患者さんの状態を把握し問題点を探り、明確にする。
  - 4 今後の指導内容を検討し、方向性を見出す。
2. [研究期間] H13年2月～H14年5月

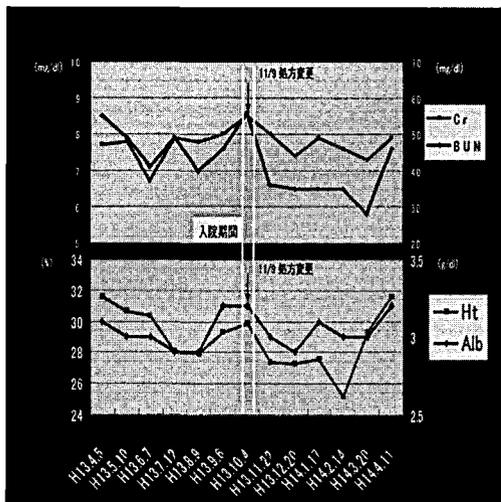


【症例1】I, S氏 男性52歳の検査結果を示す。上のグラフの赤い折れ線がクレアチン mg/dl の値を、青い折れ線がBUNの値 mg/dl 値を示し下のグラフの赤い折れ線はヘマトクリット(%)の値を青い折れ線はアルブミン(g/dl)の値を示す。平成13年2月20日 CAPD 導入され夜間機械にて透析液10L8時間で治療していたが、9月には、クレアチン14.5 BUN 95と高値を示し、Htは24, 3と低く透析不足が考えられ、11月19日溢水、

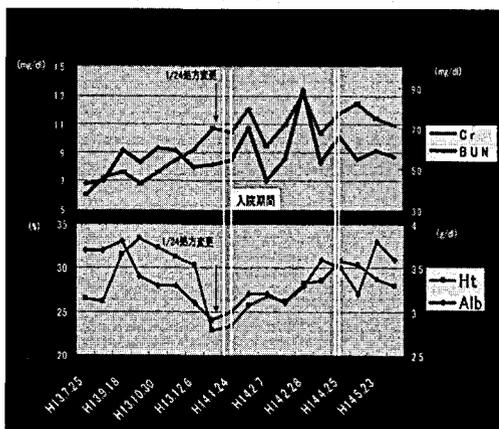
心不全にて入院した。導入期より機械の操作や手技に関しては理解力も高くスムーズに導入でき問題は無い様に考えていたが、実は機械のアラームに悩まされ、長期に渡って不眠 だったことを初めて話してくれた。11月22日より処方変更され透析液11, 4L8時間30分で治療開始したところ11月28日のクレアチンクリアランスでは十分な効率となり検査デー上もBUN42、クレアチン11, 4と改善され12月6日にはHt27%に上昇し透析不足は解消された。



【症例2】S, M氏 女性48歳の検査結果を示す。H13年1月26日PD導入され夜間機械にて透析液8L8時間で治療されていたが、常に貧血が見られ、嘔気等の消化器症状も続き、2月20日にはHt20, 1まで低下し透析不足を考え、4月22日処方変更し5月3日検査目的にて入院された。24時間クレアチンクリアランスを行ったところ、メンス開始となり蓄尿できず正確な検査が行えなかった事は反省すべき事だった。しかし自尿を除いても、効率としては問題無くHtは24, 8まで更にアルブミンも3, 1より3, 5と上昇しており検査入院は有効だった。



【症例3】 M. F 氏 女性73歳の検査結果を示す。H3年8月26日からCAPDを開始し10年間全て自己管理されていたが、最近忘れてしまうのか、承知して抜かしているのか、バック交換するのが一日2回とか1回という時もあったようである。H13年11月の定期外来受診日に嘔吐や、右胸水の出現も有り、データ上 BUN59クレアチニン10.8と上昇見られ、Ht27.4と貧血も進んでおり、透析不足と考え入院となった。11月9日より1日4回のバック交換より夜間機械にて、透析液、5.5L、8時間20分に処方内容を変更し、更に娘さんに手技を指導し、退院後の治療管理についても協力を得られる事となり、家族に対する働きかけにおいても有効であった。検査データもH14年4月11日にはHt31.6 BUN46 クレアチニン、7.9と改善されている。



【症例4】 MK 氏女性 64歳の検査結果を示す。H13年9月3日CAPDを開始したが、除除に体重が増加したため、高濃度液使用しても浮腫増強、血圧も高めとなり H14年1月24日クレアチニン、10.4と上昇し Ht23.3と貧血も認められ、透析不足と考え処方内容見直すため入院された。PETはHiであり処方内容変更したところ、2月にはHt28.2と上昇したものの、BUN89クレアチニン13.1と効率悪く5月14日再度検査目的にて入院した。24時間クレアチニンクリアランスでは明らかに透析不足であった。患者さんは、体調不良を長期に渡り訴えられており、やむなく透析併用となった。

### Ⅲ. 考察

月1回の外来受診時に看護婦が一人の患者さんの指導に費やせる時間は限られてしまう。今回私たちは病棟NSの協力を得て短期入院の中でPET及びクレアチニンクリアランス検査を患者さんに対しての負担をより少なく行う事ができ、処方内容を見直す事ができた。そして、患者さんの看護上の問題点をより明確にすることにより、確実に指導することができた。更に家族に対しても働きかけが出来た事によりPD療法が適切に行えるようになった。

### Ⅳ. 今後の課題

本人及び家族の同意が得られれば短期入院は有用と思われた。今後も病棟Nsと連絡を取り合い、患者さんがより良い状態でPD生活が送れるようにサポートして行きたい。

### Ⅴ. 引用参考文献

- 透析ケア 1996年 3月号～2002年5月号  
CAPDハンドブック第2版 医学書院  
JJNスペシャルNo62 透析ナースング